



## インテリア工学研究室

Interior Engineering Lab.

西應 浩司

NISHIO, Koji / Professor

# 多視点 Hot spring 移動を楽しむ湯浴み空間

Hot Spring from Multiple Viewpoints: Bathing Spaces to Enjoy Moving

温泉は、五感で体感するものであるため、実際に入った者にしかその素晴らしさは分からない。

温泉のいちばんの魅力は湯に浸かりながら見る風景である。日々の疲れやストレスを解消し、幸福感を得る。そんな温泉も年々利用者が減少し、日本が世界に誇る文化が近年衰退している状態にある。

このような現状を緩和すべく「従来の温泉施設に新たな魅力を」をコンセプトに、移動・入浴・休憩など異なる状況で、空間や湯水、光が織りなす多様な風景を発見しながら体感し、癒しと感動を満喫できる温泉施設を提案する。

移動時は湯水の道を歩き、夜には光が空間を包む。体験する場所、体験する時間帯によって体感する風景も変わってくる。きっと「家族」「友人」「恋人」、一緒に訪れる人でも変わるだろう。

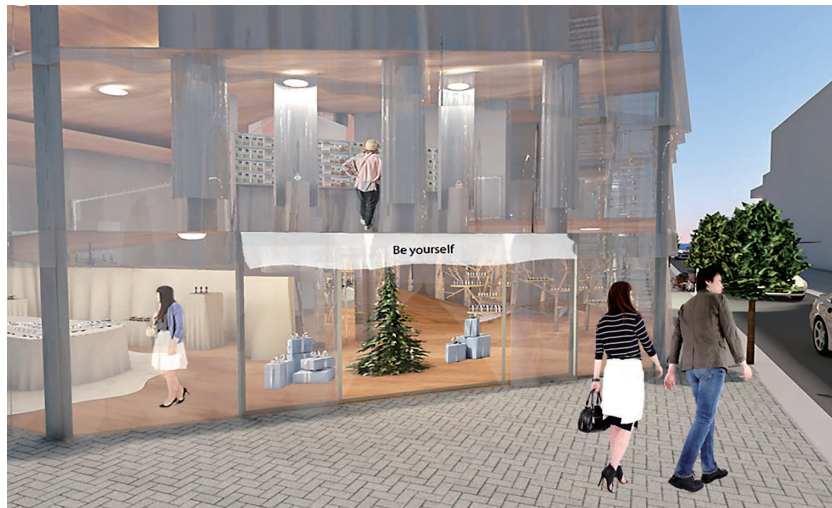


大村 昂也  
OMURA, Takaya



# ありのままの自分で ブランド街に柔かなハイブランドコスメストアを

Be Yourself: A Soft, High-Brand Cosmetics Store in the Luxury Brand District



気軽にハイブランドコスメを買いたい人が多い。しかし、ハイブランドの店舗やデパートなどは敷居が高く気軽にラフな格好で入ることができない、定員に声を掛けないと商品を出して貰えない、1人でゆっくり商品を見ることができない、などの声が実際に上がっている状態である。

そこで、心斎橋のブランド街に誰でも気軽に立ち寄ることができる、外装と内装に柔かい素材を使用したハイブランドコスメストアを提案する。

敷居の高いハイブランドの店舗でも何も気にせず「ありのままの自分」で、自信をつけられるコスメを購入してほしい。



池田 暖花  
IKEDA, Nonoka



# Aqua Horizon 淀川 淀川と共に流れる新しい時間

Aqua Horizon Yodo: New Time Flowing with the Yodo River

淀川を舞台にした新たな交通手段「Aqua Horizon Yodo」は、通勤や帰宅の時間そのものを特別な体験へと変えるサービスです。現在、約半数の人が通勤を苦痛と感じ、その原因の50%以上が満員電車によるものとされています。「Aqua Horizon Yodo」は、ゆったりとした空間で移動できる船で、この課題の解決を目指します。

朝の通勤時間帯には、穏やかな川の流れを眺めながらリフレッシュし、仕事の準備を整えることができ、夜には「居酒屋船」として、一日の疲れを癒しながら家の近くまで移動できます。また、船着場では様々な空間があり、大迫力のスクリーンで映画を見ることがもできる。

かつて物流の中心地だった淀川は、通航する船舶数が全盛期の1/20にまで減少しています。「Aqua Horizon Yodo」は、忘れられつつある川の可能性を再発見し、実際の移動時間を感じさせない、まるで時間が流れるのを忘れるようなひとときを提供します。



片伯部 希偉

KATAKABE, Kei



# 「好き」を思い出に 推し活を楽しむためのライブと宿泊施設の融合空間

Making this Feeling a Lasting Memory: A Fusion Space with Live Performances and Accommdations for Enjoying “Oshi-Katsu”



「推し活」とは、自分にとっての推しを応援する活動のことである。近年、この言葉が定着しつつある中でその楽しみ方も多様化している。

今回の提案では、推し活を通じて得られる喜びや感動を最大限に味わうことができる特別な空間をデザインした。ホテルの客室からライブ会場を直接見渡せる贅沢な体験を中心に、バーで語らいながら、屋上で風を感じつつライブを楽しむ——それぞれのスタイルで心ゆくまで堪能できる場所を提供する。

客室では、1人でゆったりと楽しむだけでなく、複数人で集まり友人と一緒に盛り上がることもできる。プライベート空間の快適さとライブの熱気が融合することでより特別な体験になるだろう。

ここでは、ライブがただのイベントではなく、記憶に残るかけがえのない物語となる。思い出を形に残し、好きの気持ちを胸に刻む。その瞬間を大切にしたい全ての人へ、推し活が新たな価値となる空間をお届けします。

金子 鈴

KANEKO, Rin



# 幾何航路街

Geometric Voyage Street

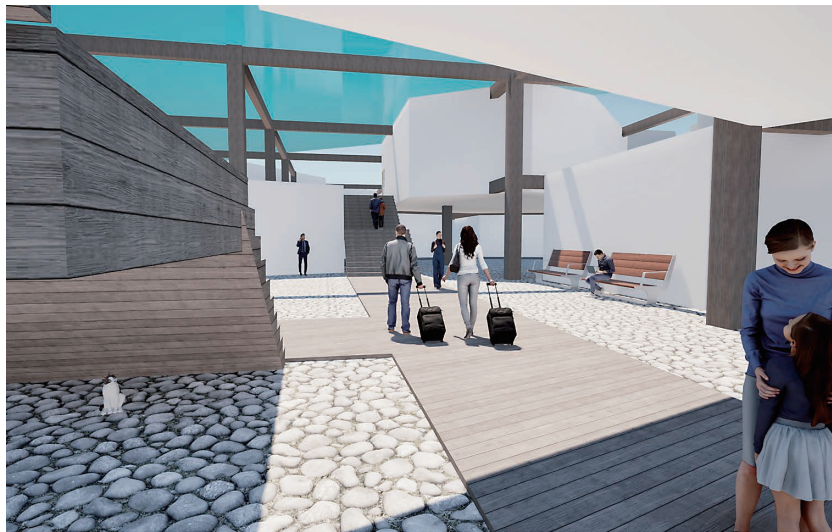
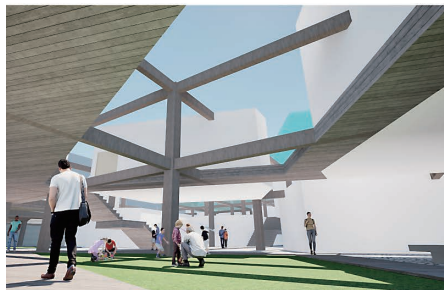
商店街から始まる街おこし

かつて町の中心として活気に満ちていた商店街は、現在では多くがシャッター街と化しています。その背景には、大型施設への役割の移行や個人商店が有名ブランドに広報力や信頼性に劣ることが挙げられます。本研究では、商店街の新しい形を提案し、地域活性化を目指す。対象は大阪市大正区。主要観光地に近い立地を活かし、商店街を活用した「商店街ホテル」を設計します。埋立地であり造船業で栄えた地域特性を反映し、建物を地下に埋め込み、まるで海底を歩くような体験を提供。上下階が視線でつながる開放的な空間とし、観光客と地元住民の交流を促進します。この取り組みで、大正区の商店街を再び「街の中心」として活気と人情あふれる場所に再生することを目指す。



柴田 誠

SHIBATA, Makoto



# 涼音に包まれて 自然に浸る水車の宿

Surrounded by the Sounds of Coolness: A Watermill Inn Immersed in Nature



現代、ゴミや水質汚染は静かに自然を蝕み、生態系を乱し、人々の健康や暮らしに影を落としている。澄んだ川は濁り、生き物の気配は薄れ、美しい景観は失われつつある。つまり、人々の心から自然への関心が遠ざかっている。そんな時代にこそ、自然と向き合い、その価値を見つめ直す場所が必要である。

解決案とし、水車を1つのユニットとし、その内部を宿泊施設や商業スペースとして活用し、「水の上で生活」という体験を提供する。温泉地の紅葉や川のせせらぎ、そして歴史を感じる水車が調和する空間を通じて、人々に自然の美しさや力強さを伝える。この場で触れる景色や音、香りが、忘れかけていた自然とのつながりを思い出させてくれる。

訪れる人々が自然とつながり、その美しさに心を打たれたとき、自然を守る意識が芽生える。この空間は、ただの憩いの場ではなく、人と自然が共に生きるための気づきの場となることを願う。



舘 慶青

TATE, Keisei



# 海と陸の邂逅 自分だけの碧を描く、巡り交える環状の宿

The Encounter between Land and Sea: A Circular Inn where You can Paint your own Unique Blue

奄美大島は、碧い海と豊かな緑に囲まれた、美しい自然が広がる場所です。

その雄大な景観を生かすため、環状の宿泊施設を設計しました。

環状のデザインは、客室や共用スペースが自然と調和し、訪れる人々が心を落ち着けられる空間を作り上げます。

施設内では、奄美の美しい空と海が一体となり、宿泊者は好きな碧を見つけることができます。

各客室には大きな窓が設けられ、窓の外には青い海や緑豊かな樹々が広がる景色が広がります。

朝日や夕日の光が差し込むことで、毎日異なる美しさを体感できるよう設計しました。宿の屋上には、展望デッキを設置し、海へと続く道を散策することもできます。

奄美大島という自然豊かな環境の宿で、空の碧と陸の碧が融合することによって生まれるあなただけの特別な碧を見つけてください。



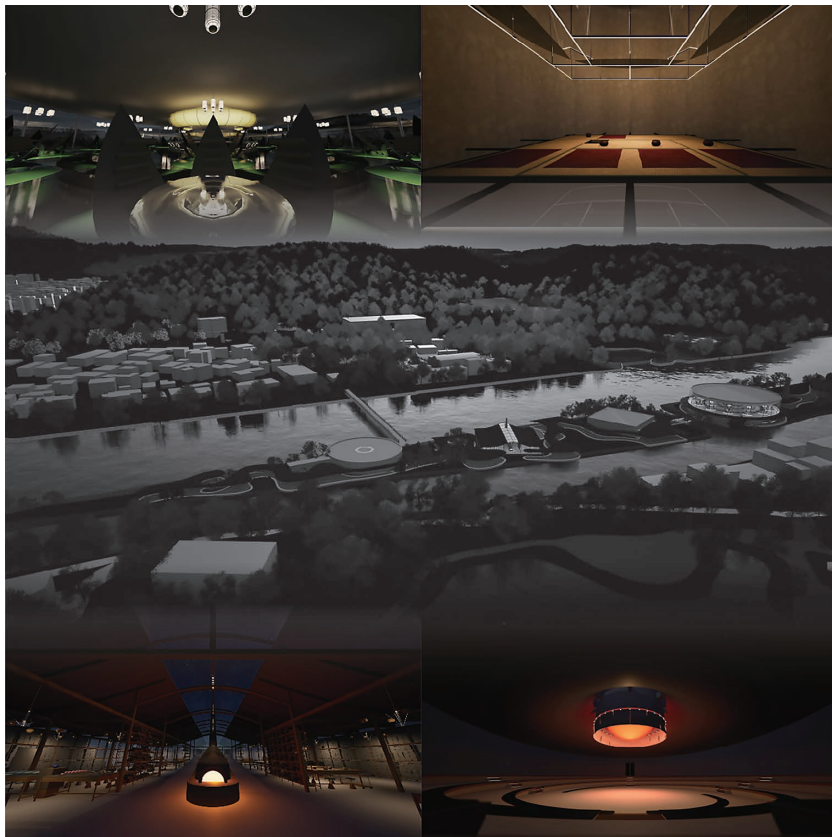
谷上 桃子

TANIGAMI, Momoko



# 宇治開闢 宇治における歴史的文化的思想に対する価値観の再編

Uji Genesis: Reorganization of Values in Uji's Historical Cultural Ideology



宇治川のせせらぎに耳を澄ませば、遠き時代の面影が心に染み入る。

月見れば ちちに物こそ 悲しけれ 物や思ふと 人の心ぞ

藤原道長が歌うように、宇治は人々の文化と思索の場であった。だが、現代を生きる人々にとって、その美しさの奥にある価値観や思想を理解することは難しい。私はこの価値観のズレを埋めるために、空間表現、体験を通じて、古の宇治の文化世界へ引き込む場を文化美術館として提案した。

朝日焼は手でつくる温もりを伝え、宇治の自然を未来へ紡ぐ。宇治田楽の舞は末法に差し込む陽を表し、宇治上神社の空間の対比は茶の湯に新たな感覚を吹き込む。巨椀池の蓮影を映す円卓で人々が集い普茶料理を食す。

これらが文化美術館を形づくり、宇治を体現する。  
「過去を思想を紐解き、未来へと紡いでいく。」  
古と今が交わる宇治の新たな文化体験が生まれる。

中村 伊吹  
NAKAMURA, Ibuki



# 水辺で楽しむ釣りと景観 釣り人が快適にすごせる為の空間

Fishing and Scenery to Enjoy by the Water: Space for Anglers to Spend Time Comfortably

時間や我を忘れて没頭してしまうほど、「釣り」は奥深く面白いアクティビティである。

しかし、堤防やテトラポッドのような場所は釣り人の目線からすると足場の悪さや長時間日光に晒されるなど過酷な環境下である。

釣りをする環境としてはあまり適していない為、「釣り」を楽しむ為の環境づくりや釣りを楽しんだ後のことも考慮し、「釣り」をより楽しめる空間を提案する。

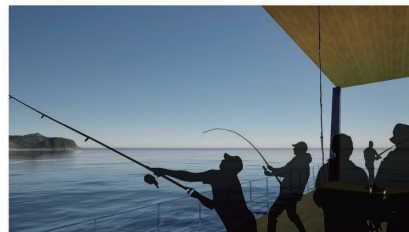
具体的には「釣り」を長時間しやすいよう屋根を架けて日陰となる空間の提案、釣れた魚を新鮮なまま食べることができる調理場所の提案、また釣りをする時間帯として深夜から早朝にかけて行う人が多い傾向にあるので昼間や疲れた際に休息できるような宿泊施設を設計する。

ここは、釣り人だけではなく、訪れる人々全員が水辺での時間を快適に過ごすことのできる空間を実現する場である。



延地 裕貴

NOBUCHI, Yuki



## 曖昧な儘 ―自ら赴き、自ら探す

Leave it Ambiguous: Proceed and Explore by Yourself



ここは島根県にある小さな島  
店舗と客室が混ざり合う商業・宿泊施設  
訪れた観光客と住民との出会いの架け橋となる

昇りつつ腰を降ろすたくさんの階段  
様々な種類の店舗が建ち並ぶ商業ストリート  
森林を抜けた先にあるテラス  
気を遣わずに過ごすファミリーの森  
建物が入り込む迷路エリア

ここへ来た者へ地図は示さない  
つまりどこに何があるのか分からない  
自ら行動し、彷徨いながら目的地を探していく

ここを訪れた人たちは  
たくさんの物語を作るだろう

服部 夏海  
HATTORI, Natsumi



# スマートフォン保持・不保持によるパーソナルスペースの変化とその特質に関する実験的研究

An Experimental Study on the Changes in Personal Space and its Characteristics Caused by Holding or not Holding a Smartphone

## 研究の背景と目的

これまで建築デザイン、インテリアデザインの分野では、未知のコミュニケーションや、心地良いコミュニティの生成を助ける条件を検討し、物理的空間の形態や設えを設計してきた。しかし、現在、それらの条件は、様々な分野のシンギュラリティによって大きな質的な変北を遂げていると考えられる。この研究では、これから主な社会の担い手となる20代の若者のパーソナルスペースとコミュニケーションの意識を調査する。実験的方法から得られたデータを分析することで、心地良さを感知、ストレスを減じる空間を設計する方法に役立つ知見を得る。

## 実験方法

条件（スマートフォン（\*以下SPとする）保持／不保持）によるパーソナルスペース（\*以下PSとする）の変化とその特性（PSを認識するプロセス、PSの質的な変質と移行）を明らかにする。

## 実験概要

実験空間（Fig1）にてアイマークレコーダーを装着し

た実験協力者2名は接近し、PSの距離の段階（エドワード・ホールによる密接距離、個体距離、社会距離、公共距離の4つの対人距離）を認識した時点でボタンを押してサインを発する。その過程をビデオカメラで撮影し、記録した。実験協力者（初対面である20代の男性32名）に優位脳検査心理テストを実施し、空間に対する認識の特徴と、属性による分類を行った。アイマークレコーダー、アンケートなどから、PSを形成する。距離の段階を区別する数値的指標を得る。

## 結果と考察

実験によって得られたデータを分析した結果、下記の実験データからSPを所持している場合と、所持していない場合では、SPを所持していない場合の方が全体的に広くなるという傾向がみられた（Fig2）。また、心拍数はSPが所持していない場合の方が全体として高かった（Fig3）。以上のことから、SPを持っていないという不安感を感じ、すべての対人距離において、よりPSを重視し長めの距離を確保したと考えられる。また、SPの有無以外にもSPの使用時間や性格によるPSの

変化、アイマークレコーダーによる4つの対人距離での視線変化の解析を行った。

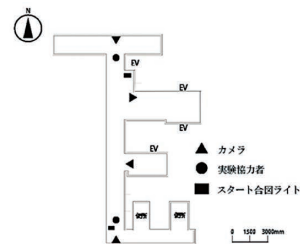


Fig1 大阪工業大学梅田キャンパス4階フロア

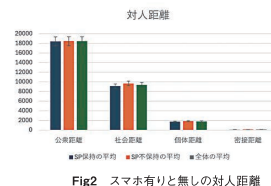


Fig2 スマホ有り無し対人距離

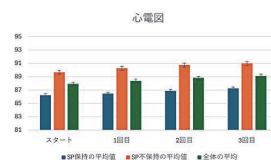


Fig3 スマホ有り無し心拍数

## 参考文献

- 1) エドワード・ホール：かくれた次元、みずす房、1970.10
- 2) 渋谷昌三：人と人との快適距離 パーソナルスペースとは何か



花岡 大介

HANAOKA, Daisuke

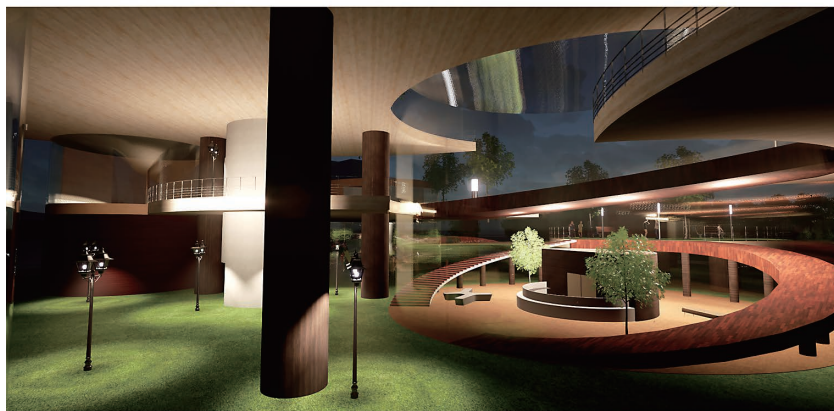


水谷 海翔

MIZUTANI, Kaito

# 待ちあぐむを和みに 待ち時間から始まる病院

Turning Waiting into Comfort: A Hospital that Begins with Waiting Time



病院が持つ「怪我人や体調の悪い人だけが行く」という負のイメージを払拭することを目的に、誰でも訪れたいくなる親しみやすい空間を設計した。

従来の病院のイメージを覆すため、待ち時間を退屈せず、時間を忘れてリラックスできる環境を提供することを目指した。

設計の根幹には、和歌山県の自然の魅力を活かすことがある。患者や訪問者が安らげる環境を整えるために、和歌山の美しい海岸線や山々の風景を取り入れたデザインを考案した。

待合室の窓からは、緑豊かな庭園や自然光が差し込む明るい空間を設け、自然の中にいるようなリラックスできる雰囲気を作り出すことを意識した。

目指したのは「病院らしくない病院」。リラックスできる環境を通じて、患者が安心して過ごせる時間を創出し、健康回復に寄与することを目指す。

松浦 漱佑

MATSUURA, Shu



# 快適な暮らしをもたらす植物 植物と人の関係を再認識する衣食住のアウトドアミュージアム

Plants to Bring a Comfortable Living: Outdoor Museum of Food, Clothing and Shelter for Realizing the Relations of Plants and People Again

綿のタオル

食事中に出るサラダ

体で感じる木のぬくもり

私は植物に囲まれて生活し、暮らすうえで植物に助けられている感覚がある。地球温暖化で植物が減っている傾向があるが、改善するにはもっと植物について知っていき、共に暮らしていくべきではないだろうか。

そこで私は植物と人の関係を再認識することを目的とする衣食住のアウトドアミュージアムを提案する。

このアウトドアミュージアムは「衣」「食」「住」3つのエリアを展開し、内部と外部の空間が融合するよう交わらせた。植物素材のもののづくりを体験できる施設やキッチン、カフェを設け、さらに「みどりの資料室」設け、落ち着いた静かな空間やにぎわった空間など様々な空間を創り出している。

さらに、壁や屋根の様子は葉脈をイメージしており、葉っぱに取り囲まれている感覚を想像させる。

この場で多くの人が植物に触れ、身の回りの植物とともに暮らしたいと考えてくれるように期待する。



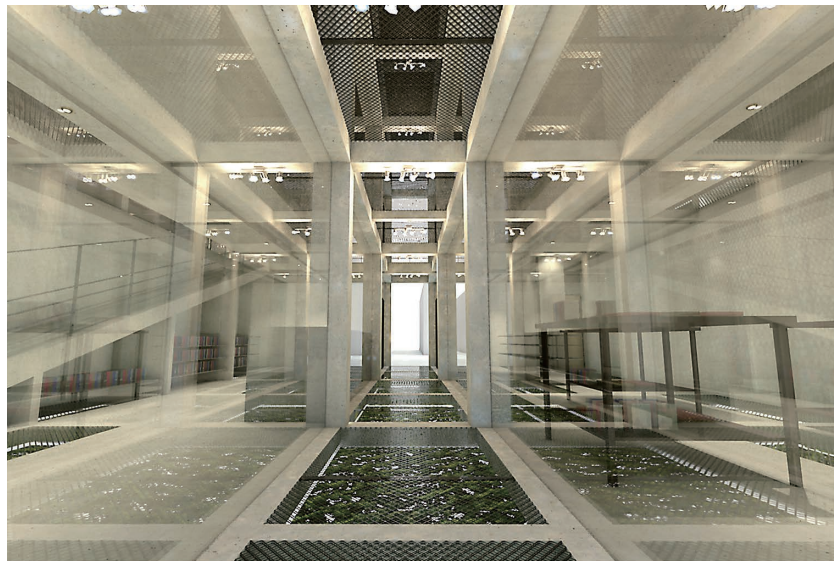
横田 絢女

YOKOTA, Ayame



# 森見登美彦 記念館

Tomihiko Morimi Memorial Hall



## 設計動機

自分の生涯の中での楽しみの一つであった書籍やその中に登場する世界観を表現する空間を作り出すことに取り組みたかった。その中でも妖怪と人間の交わりを紡ぎ続ける森見登美彦とその作品世界を取り上げることにした。

## コンセプト

展示空間は森見登美彦作品に登場する天狗などの「妖怪」と「人間」の空間のまじわり、通り道をイメージしてデザインした。グレーチングやガラスブロック、素材の透明度による視線透過と連続する道的空間を用い、人間の空間と妖怪の空間の交わりを表現している。スラブは作品に代表作「四畳半神話大系」にちなみ畳のモジュールをベースに設定した。

前田 翼

MAEDA, Tsubasa